



服部文庫  
417  
2272



1745  
22

徳川家  
御用  
印



廿三日

徳川家御用印

明治二十一年一月一日

いそいで来ておれりし方申すに

社

いそいで来ておれりし方申すに

元日

あはれめでたき御用印

あはれめでたき御用印

服部文庫  
117  
2300

山程のよここのさきの柳をえをこぼれよりちいれそやま

柳す大又し柳

ちとまし枝の枝をえをえに柳のつらまうら花

よす大 湖

湖の氷

ちとまし枝の枝をえをえに柳のつらまうら花

よす大 湖

ちとまし枝の枝をえをえに柳のつらまうら花

湖の色こぼれ

ふの程のえまはあぐすりのほの時の際をえ

あはこちのれりやうのえをえをえをえをえをえ

柳す大

ちとまし枝の枝をえをえに柳のつらまうら花

柳す大

ちとまし枝の枝をえをえに柳のつらまうら花

々

ついでにあらたに船安のみの船がしついでにあらたに

なるまは、

あらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

あらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

あらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

あらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

あらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

Handwritten red text at the top of the page.

たまたまのあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

牧草の約

またまたあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

野雜

またまたあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

困雜

またまたあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

日記

またまたあらたにあらたにあらたにあらたにあらたにあらたに

山花記

花をよめるは人の心をよめるの如し

山を記

山花未開 五葉松を記す 山花未開 五葉松を記す

花似る

咲きよのえのちあつらふはすれは

昔は昔と

昔は昔と

日記

日記

日記

日記

日記

多岐路

多岐路

多岐路

多岐山

山吹の子のしれびす母よきて挿ぎくつ<sup>ま</sup>慎の  
栲とサ滕<sup>な</sup>花

あちよのまきまらぬ川栲よれよとよりぬ人たまき哉  
三月晦りまき山ア<sup>ま</sup>ちのちとくれ

れまのちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ  
す大<sup>れ</sup>見

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ  
きるはる<sup>ま</sup>

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ  
す大<sup>ら</sup>る

井<sup>た</sup>まきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ

す大<sup>ま</sup>述懐

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ

す大<sup>ま</sup>部

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ

す大<sup>ま</sup>衣

あつ<sup>ま</sup>のちまきまらぬけこさるおましらつあてまきぬれぬ





中より出られぬあめ社おあいのちよき

河カク

うらやにこれうすもこもぶかるはれよとて

其はる

うらやにこれうすもこもぶかるはれよとて

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

早瀬そこの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

其はる

あけそこのの早よまのこえまそるる

其はる

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

あけそこのの早よまのこえまそるる

其はる

あけそこのの早よまのこえまそるる

山崎道人、しんせし  
はらけをとりし  
夕立のうらたれ  
すーこま地のゆき  
つらそそはちあま  
夕立のあか

舟釣歌

はらけはま舟のせりゆりておひまようさ  
浦草夕

舟草夕

うららつるえりたれをくさりのあか  
舟草夕

あまのとりとくみ船よあけ  
舟草夕

あかあまのうらつりてゆりまよまを  
舟草夕

舟草夕

あかあまのうらつりてゆりまよまを  
舟草夕

舟草夕

あかあまのうらつりてゆりまよまを  
舟草夕

舟草夕

あかあまのうらつりてゆりまよまを  
舟草夕

舟草夕  
あかあまのうらつりてゆりまよまを  
舟草夕

舟草夕

清は...  
あやめりるれ

五七五

こをきすにまのほのちもくくひなえて  
まらへつしつらとまらぬにのせよかして  
ちりつとほのこころはてまらうはまそくつる

六月 望月のよまや...  
あやめりるれ

行路五七五

こえとくくちりまらぬ...  
初秋夜  
こえとくくちりまらぬ...  
初秋夜

初秋夜

このよまの...  
初秋月

初秋月

のまの...  
初秋月

初秋月

のまの...  
初秋月

初秋月

のまの...  
初秋月

初秋月

初秋...  
初秋月

初秋月

初秋...  
初秋月

○ ちのねんくろくろくし 降る下 ありはまろし 秋の

木 あり

○ しろく <sup>ハ</sup> しろくろくろく 秋の枝 秋の枝 <sup>ある</sup> 秋の枝 <sup>あり</sup>

秋 あり

○ 鳴むのうらちらく 吹れよ 秋の <sup>あり</sup>

山 秋

○ いま <sup>あり</sup> ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

日 あり 秋

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

秋

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

草 あり

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

秋

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

風 あり

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

○ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

秋の枝 ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

秋の枝 ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ ありあけ

ひめゆりまをまのにおよつてませそちかしつとめら

山家秋夕

しつこういさひひらほのひをさき思ひちりてし秋のそれ

秋山石

しつちのせいのまののひのよきはあけ秋のあつれのやうに

秋方隔河

向ほの若さのしつと秋の方のちりてのやあせま

お鷹

我ぬもあつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

*あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ*

待

*一しつとせぬれぬれ*

あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

いさひ

あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

いさひ

あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

*あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ*

あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

いさひ

あつとせぬれぬれ池のうらぐれとまのこのおゆ

いさひ

月のにこあきよ  
三本木の橋ありて  
月きよみありあま  
の山にあらまき  
くゆよつりれ

雲いみれやのさちきよのよきまもつて日しほ

湖正月

てのめりたれさえまもみして氷さあめさすめ

梅正月

もりほこのあのみちゆきもちあかひのめり

南正月

くらくれりゆつたれゆきもあまのさし

了後月

けりけりあつたれゆきあまのさし

月正月

秋

秋

てのめりたれさえまもみして氷さあめさすめ

月下正月

のそちあて老あまのなつたまめてさうそ

相雲如佳月

あまのつれはまうこころはきれやぶらこもりあ

田正月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

秋正月

てのめりたれさえまもみして氷さあめさすめ

改弭秋

あぐれよ 秋の

ちま 秋の

老を 秋の

ら 秋の

秋 田

あぐれよ 秋の

惜 秋

ちま 秋の

老を 秋の

ら 秋の

ら

あぐれよ 秋の

ちま 秋の

老を 秋の

ら

みえに記

初め

まあるのちのひききよのまあるのまあるのまあるの  
あひまのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

初め

夕時

村ののちのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの  
まあるのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

海



二 初め  
三 初め  
四 初め  
五 初め  
六 初め  
七 初め  
八 初め  
九 初め  
十 初め

夕時

まあるのちのひききよのまあるのまあるのまあるの  
あひまのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

初め

まあるのちのひききよのまあるのまあるのまあるの  
あひまのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

まあるのちのひききよのまあるのまあるのまあるの  
あひまのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

初め

まあるのちのひききよのまあるのまあるのまあるの  
あひまのまあるのまあるのまあるのまあるのまあるの

初め

初め

二 初め  
三 初め  
四 初め  
五 初め  
六 初め  
七 初め  
八 初め  
九 初め  
十 初め



正 山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

正 山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

正 山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

山草花

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

あけし三つやうなわたり  
夕べののくしあまき  
こら(の)し

うらまひなりてこころ  
はのしらす  
しらすのつらさ  
比二川うらまひを  
みしやすめぬ

三三三  
宮田路  
ことおもふまは  
すゆまのしらすめ  
うらまひの声

三三三  
野鷹狩  
うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

湖上こころ

かみかみのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
山

あけのつらさ  
うらまひのつらさ

社歌こころ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

秋こころ

私利のつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

江畔こころ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ

うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ

三三三  
うらまひのつらさ  
うらまひのつらさ



八  
己のほり  
九  
このま  
このま

とてしん  
とてしん

上  
上

これの中  
これの中

福  
福

相  
相

送  
送

の  
の

数  
数

ふ  
ふ

ま  
ま

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

三  
三

月夜

夕の暮あけのほのぼののあやまきんれとあやのよのよ  
雑之部

朝

ひるいあけのぼろのうららあやのよのよあやまきんれ  
あやまきんれ

夕の暮あけのほのぼののあやまきんれとあやのよのよ  
あやまきんれ

あやまきんれとあやのよのよあやまきんれとあやのよのよ  
あやまきんれ

磯松

あり磯のしほのほのぼののあやまきんれとあやのよのよ  
あやまきんれ

松栞仙

あやまきんれとあやのよのよあやまきんれとあやのよのよ  
あやまきんれ

月夜

夕の暮あけのほのぼののあやまきんれとあやのよのよ  
あやまきんれ



皇太后

○ 吹せらふつゝあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
ちとせらふつゝあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
のこれ外

○ はくちる字 軒の木はあららちんあひくハ氏の  
あまの

海人

○ ちいねれつゝあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
さまの

仙人

○ いづれつゝあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

木子ま

○ ましあつてつゝあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

磯道社

△ 鈕  
後天

○ 南つそあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

杖

○ まらあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

宴

○ まらあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

○ まらあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

老公羽

○ まらあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの

古戦場月

○ まらあまのまはせりてらんまじりてよきまのあまの  
あまの









あつたものをいふはむじやあれとくちあつたもの  
あつたもの

海人

刻れぬしつらあつたものあつたもの  
あつたもの

樵路

つらあつたものをあつた大路まへ  
あつたもの

金剛寺まへ

松風あつたときいふはあつたもの  
あつたもの

主の山ハハ

は道平ありるはあつたもの  
あつたもの

あつたもの

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの

五月大立りつた川のあつた地  
あつたもの

あつたものはあつたもの  
あつたもの

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの

泉川を

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの

あつたもの

あつたものいふはあつたもの  
あつたもの



留弁又

○ ちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
二年九月

○ ちあきのちあきをちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
あかあきあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
カ松内守

○ ちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
みれとけりしあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま

楠正成ス

○ ちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
みれとけりしあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま

はあき

向嶋高徳

ちあきのちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
織田信長云

二枚信

ちあきのちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
加藤清正

徳吉直文

ちあきのちあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま  
川上せきあきくつれきくしあけりしあきの海せきあま

下空スラ

子  
一カヤとらけにそ牛のものをいふと

四

ゆるみうます付ありてそくんぬのなまにりぬゆ

谷方るる

まのらのもやうもてしたの舌のいおまうこくわ

流野るる

一うらまじろくやていすかじんまうらうまあうの

还懐

あまのあとしあうのう代一うらうらわ

寄車还懐

らららめらうくしあぬれぬしころらり

立木守保り庭の菊をえく

みよのちきりしとあはれやも代にゆわらぬ

寄返視

そら代にそのそとまうらぬくのほよあはるる

あらしのぬうく本しうまなはえぬこの

寄り 四視







